

## 学校再開

2020. 5. 19

5月14日（木）に政府から緊急事態宣言が解除されたことを受け、県知事より、諸準備も必要なことから5月24日（日）をもって休業要請を解除し、5月25日（月）から段階的に学校を再開して、6月1日（月）から全面的な授業を再開するよう要請があった。

本校では、5月18日（月）から5月29日（金）までを分散登校による授業を行う期間としていた。これにより、生徒一人当たり2日に1回、4時間の授業を受けることになる。

だが、県からの要請を受け、5月25日（月）までは分散登校による授業を実施し、5月26日（火）から5月29日（金）までは、午前中4校時、昼食なしの短縮授業を行い、6月1日（月）からの全面的な授業再開に備えることとした。

こうすることで、毎朝規則正しく起き、準備をして登校するという生活のリズムができる。また、午後の時間を使って、必要があれば個別に補習を実施したり、適切に家庭学習の課題を与えることもできる。

授業は再開されるが、部活動は6月7日（日）まで実施できない。現在、各競技ごとに高体連の専門委員会が、地区大会、県大会の代替のための大会や記録会の実施を模索している。大会の実績が大学進学に結び付く3年生もいることだろう。今まで努力した成果を出す舞台がほしい3年生も多いことだろう。6月から全面的に教育活動が再開されるとはいえ、すぐに大会を開催できるものではない。長期にわたり、各学校とも部活動を行っていない。全力を出す場である大会等を急に開けばケガのリスクも高まる。何よりも選手が十分に力を発揮することができない。そう考えると代替の大会は8月に実施するのが現実的ではあるが、その頃は進学や就職に向けて動き出している3年生も多いかもしれない。果たして大会へ向けてのモチベーションを維持できるのだろうか。

一方、臨時休業中にできなかった授業の分を補充するために、長期休業期間を短縮したり、行事の精選を行ったりしなければならない。おおよそ10日以上分は確保しなければならない。本校の場合は、就職希望の生徒が多いため、夏季休業を短くするには抵抗がある。冬季休業は短縮しやすいが、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波あるいはインフルエンザの流行も考えられる。そう考えると、できる限り夏季休業の中で対応したいところだが、頭が痛い。行事の精選も視野に入れる必要がある。秋の文化祭にもメスを入れざるを得ない。各行事の意義や実施時期等を考慮し、優先順位をつけて検討していく必要がある。3年生の進路対策に直接関係することなので、できる限り早期に結論を出したい。

とりあえず学校の教育活動が再開されることはよかったのだが、課題が山積みである。課題を一つ一つ解決していくために、先生方の英知を結集したい。大切なのは、生徒一人一人にとってどうなのかという視点である。学校は再開されても、徹底した感染症対策という状況下では制約も多い。それでも先生方の思いがあれば、この難局を乗り越えることができると信じている。思いは生徒一人一人に伝わるはずである。